

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	あらぐさこども食堂
取組の名称	① あらぐさこども食堂 ② 不登校の居場所（フリースペース）
実施場所	あらぐさ教室
対象地域	武蔵中原駅周辺
対象地域の特色・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅に近く通勤通学しやすいことから核家族共働き世帯が多い。保育園がたくさんあり、公園が色様々のカラー帽子園児でいっぱいになる。放課後は校門前に何社もの習い事等送迎車が待機している程、子どもも大人も忙しい生活スタイルで、地域や人とのかかわりが薄い状況と察する。 ・ 不登校の相談を何件か受けたことがあり、そのようなこどもたちの居場所が必要と思われる。また放課後遊べる場や友が十分でない状況がうかがえる。 ・ 風紀が良い安心安全な地域。
取組の趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活スタイルの様々な事情により、一人もしくはこどもだけで食事をしているケース、一人暮らしの高齢者が増えている。その食事内容は栄養バランスにかけていると想像つく。食卓を囲み、おしゃべりを交わしながら食べることで、食事が楽しい美味しいと感じつつ、人とつながりあって成長し、生きる力の構築の一助となることと、居場所になることを目指す。 ・ 共働き家庭においては、月 2 回であっても夕食作りからのがれ、ゆったりと子どもに向きあえることが出来、こどもからその保護者ともつながり、子育てを共有し楽しめるようになる。 ・ 退職後の一人暮らしの人達との交流や、世代を超えての語らいが、人としての幅をもたらしたり生きる励みや力になる。 ・ 学校にいけない子、いきたくない子らの居場所つくりに加え、放課後の過ごす場、集える場の提供。

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>① 毎月第2と第4の火曜日 17:30～19:30 にこども食堂を開き、食後は遊んだり、おしゃべり交流をしてきた。狭いスペースなので、先着20食の申し込み制としている。第1金曜日には、バランスよい栄養価のある季節を感じられるメニューを管理栄養士を中心にボランティアスタッフと立案し、ちらしを作成し、お知らせしている。</p> <p>② 毎週水曜日 10:00～17:00 の時間帯で過ごすこどもの居場所として開室してきた。不登校の相談を受けたが、利用者はなかった。放課後の遊び居場所としては毎回利用者があり、来た子の気持ちを優先して寄り添い、おしゃべりや遊び、時にはおやつを作って食べたりして過ごしていた。中には苦手な学習の話が出たので、算数支援学習も続けている。</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>① 1歳から高齢者 ② 小学生</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>① 20人 ② 5名前後</p>
<p>実施頻度</p>	<p>① 月2回 ② 毎週水曜</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>① 24日 ② 52日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>① あらぐさ教室関係者・栄養士・調理士・調理ボランティア ② あらぐさ教室関係者</p>		
<p>連携する団体・連携の手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民や寺院との交流 ・かわさきこども食堂ネットワークなどからの情報提供 ・社会福祉協議会からの情報提供 ・保健所への相談挨拶 ・びんずネット、多様な学びプロジェクト、子ども若者応援フリースペース（品川）への相談助言 		

<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>① ・会食に喜び嬉しそうにおしゃべりを交わす中で、食育（好き嫌いの話・食材の話・旬野菜の話・調理方法）に繋がった。また顔見知りになると、食後の遊びを誘い合ったり、世代を超えたおしゃべりが弾んだり、高齢者は介護や終活の話をしたりなど、つながりができてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの方にとっては、おしゃべりで声を出すことやこどもたちから英気をもらえることが大きな喜びの様子。昔の生活や教育を問われると、うきうきとした表情で話していた。 ・食後の遊びに、公園に行きたい希望が出るが増えた。普段習い事で公園で遊べないらしく要望が強く 30 分くらい対応している。 ・こども同士で水曜日のフリースペースで遊ぶ約束を交わすことも見られてきた。 ・子育ての不安や悩みについておしゃべりすることで、表情がほころび気分転換になっている様子。 ・赤ちゃんの接し方を見て、我が子の意外な面を知れてうれしそうであった。 ・こども食堂を立ち上げたい方々の相談に応えた。場所が見つからないとのことで、ボランティアスタッフに加わってもらっている。 ・家庭科教師希望の大学生が見学に来て、都合つく範囲で手伝ってもらっている。 <p>② ・学校や家庭、同世代の子どもには吐き出しにくい内容の話をする子もおり、そうした子の受け皿になる事ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント時（かき氷・流しそうめん・鈴カステラ）や長期休み期間には地域の一か所の学校だけではなく、複数の学校から子ども達が訪れる為、年齢・障がい・不登校の有無問わず交流の場になっている。また、付き添いで訪れた保護者同士の交流の場にもなっていた。 ・学校や家庭、習い事などとは違い制約がない為、子ども達はのびのびと過ごしている。しかし、フリースペースや居場所といった場や言葉がまだまだ認知されておらず、子どもや保護者が気楽に訪れたり相談しに来るケースは少ない。
----------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none">・ 支援学習を通し苦手だった算数を少しずつ理解し始めている。・ 1年目であった昨年は主に不登校の子どもを対象とし考えていた。しかし、地域の中で子ども達が過ごす場所が少ないなどといった状況が見え始め、途中から放課後の居場所として開放。2年目となった今年は一定の認知を得ることができ、延べ利用者数が増えた。年齢・国籍・障がい・不登校の有無問わず、子どもや親子の学校や家庭とは違った地域の交流の場になることができた。・ 昨年も夏季に行っていた「かき氷一杯10円、お皿を洗ってくれたら10円返却」を今年も行い、当初かき氷目的だった子ども達が、食後もあらぐさで過ごすようになった。・ 長期休み期間中や学校が早く終わった際には、昼食の提供やおやつ作りも行った。・ イベント時（7月と12月「原毛工作」・10月「流しそうめん」）は子ども達が企画に参加するのみであったが、3月に企画したデイキャンプでは、当日参加する子ども達を中心に話し合いを重ね、計画（遊び・昼食）を考え、しおり作りを行うことができた。企画は大人発案であったが、新たな試みとして子ども達が主体的となり、デイキャンプ当日に向けて取り組みを行うことができた。
--	---